

さんむのふるさと散歩

No.6

さんぶの民具

今回は、さんぶの森中央会館の敷地内にある「民具収蔵庫」の収蔵品を紹介します。

収蔵庫内には、杵・臼などのほか、唐箕・足踏み式脱穀機等の農機具類がたくさん収蔵されており、照明のほの暗い室内にいますと、古い農家の納屋の雰囲気です。

このなかでひとときわ目を引く収蔵品があります。人力牽引・手動散水式の消防ポンプ車です。本体部分は、軽自動車よりはるかにコンパクトながら重量のある鋼鉄製の水槽・ポンプを搭載するため、しっかりとした造りになっています。



消防ポンプ車

台車部分を見てみると、

車輪・車軸・牽引用の柄は木製で、部材の結合部分は鉄板でボルト止めされています。

同じ庫内で収蔵されている大八車と基本的に同じ構造です。

大きさは全長が約二四〇cm（八尺）、幅約一一〇cm（三・五尺）を測ります。

一方、収蔵している大八車のサイズを見ると、幅はほぼ同じですが、全長はポンプ車より一尺分長く二七〇cm（九尺）です。

大八車が使われ始めた江戸時代初期ごろ、車台の大きさにより大九、大八等大きさで呼び分けをしていたそうです。そうするとポンプ車は大八車サイズ、大八車の方は大九車サイズといったところでしょうか。

収蔵するポンプ車には「白玉」地区の銘が残されています。「カン・カン」火災を知らせる半鐘の音が鳴り響くなか、緊迫した面持ちで集合し

た消防団の青年たちが「チリン・チリン」とベルの音を響かせながらポンプ車を牽引しつつ、白玉の「坂」を上り下りする姿が目に浮かびます。

満水に満たされたポンプ車は重く、引き綱（鎖）が牽引する四人の肩に食い込んだことでしょう。また、車輪の鉄枠が地面にめり込んだ時などは、引き上げるのにかなり苦労したことと思われます。

「愛する家族・郷土を火災からまもりたい」そんな想いが伝わってくるような収蔵品です。



大八車